

通信・織りの風・vol-011

NPO 織風会・クラフトヌプリトック

寒中お見舞い申し上げます。
新しい年のご挨拶を頂きながら、個人的な理由も相まって、お返事もせずに申し訳ありませんでした。

月日があっという間に流れて、昨年8月以来の通信・お便りです。

東京オリンピックのさなかの感染拡大から、年末に向けて淡い期待の感染収束を経て、今の状況…デルタ【δ】株から聞きなれないオミクロン【o】株という言葉が氾濫し、感染力も巷に氾濫して、私たちの日常生活がますます息苦しくなっています。

本日<1/25 am10:34>川崎市 健康福祉局 障害者社会参加・就労支援課からのメールが届きました。
以下・抜粋です…

「～感染力が強く感染者が著しく増加している状況です。
不要不急の外出を避け感染リスクを回避する行動をとるとともに、かぜ症状等体調不良がみられる場合は、利用者だけではなく、可能であれば従業者も出勤を見合わせ事業所内にウイルスをもちこまないように努めてください。」

この一文に、何か素直に受け止められない私があります。

提示された指針はもっともですが、コロナ感染の初期の段階で、利用者の日中活動場所の確保はして下さいと指示されました。緊急事態宣言下で、学校も閉鎖され、テレワークといった対応も推奨された状況の中で、利用者さんやスタッフの安全のために作業所の閉鎖をきめたときでした。感染が爆発的に急拡大してきた今、ウイルスを施設に持ち込まないように、体調不良が疑われるなら通所・出勤を見合わせなさいというのはもちろん正論です。それではその保証は何かしてくれるのでしょうか。利用実績、毎日の通所の人数が落ち込めば、ランクが下げられ補助金も減額になり、これでは健全な運営・支援など到底できません。

小さな作業所でのリスク対応、危機管理として、感染予防には最大限努力をしていますが、いつ・どこで感染するかわからない今こそ、安定した運営が保証された状況で作業活動・利用者支援ができるように川崎市はしっかり対応して欲しいものです。

コロナの感染が始まった2年前、未知のウイルスの対応に翻弄され、マスクが全くなく、消毒液もなく、ソーシャルディスタンスという人との距離をとらされて、あらゆる場面での非接触型の生活様式がアツという間に浸透しました。
買い物のレジもセルフレジ、はたまた電子決済、挙句に硬貨の預金にまで手数料を取られる始末。この先の私たちの生活様式はどこまで殺伐とした距離感となっていくのでしょうか。

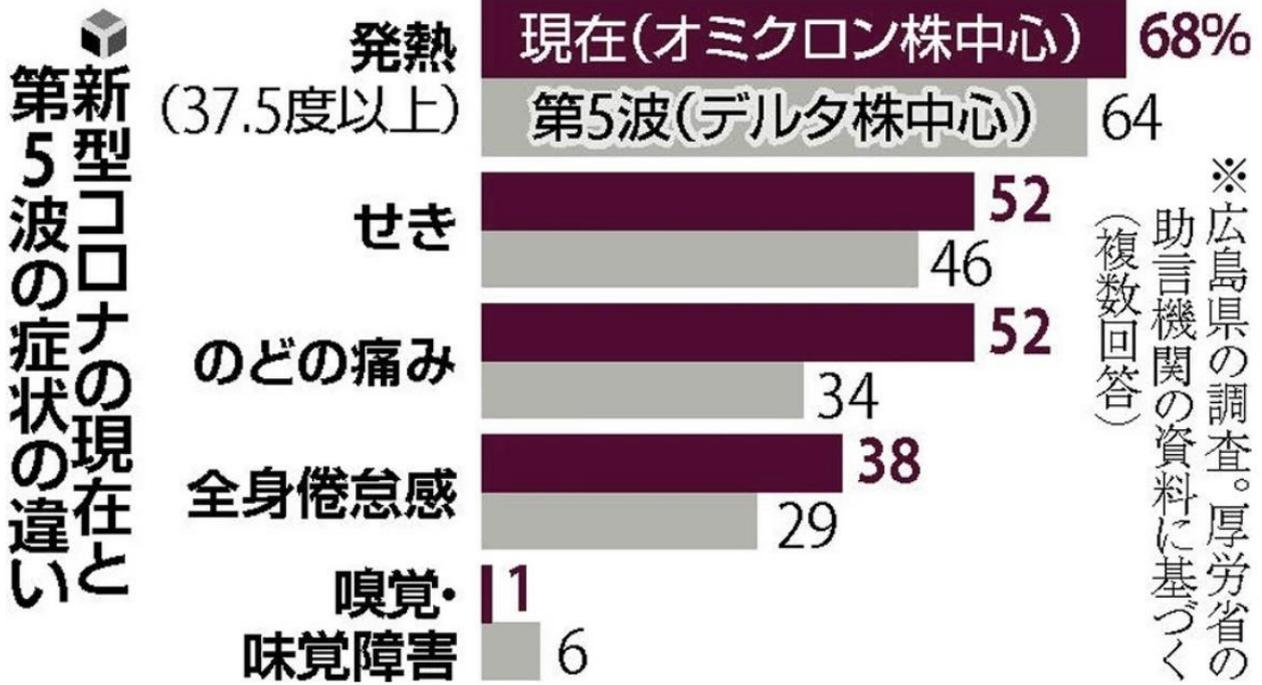
とはいえ、皆さん！ とにかく健康管理には十分に気を付けていきましょう。
万一コロナの疑い、陽性になった際は、速やかに田口、名古屋どちらかにご連絡ください。
個人の情報はしっかりお守りいたします。
コロナでのお休み対応に関しては、利用者の方は勿論のこと、スタッフの方たちの工賃・賃金も補償いたしますのでご安心ください。

生田緑地の梅がチラホラさきはじめていました。ロウバイも、ミツマタも…
こんな状況だからこそ、近場の緑地で、のんびり散策もしたいものです。

文責；名古屋



参考資料



オミクロン株は、肺炎以外の症状でも、デルタ株と様相が異なる。

上記の症状がみられた場合は、医療機関に相談・受診してください